

〔植物ニュース〕75, ヤナギ類 *Salix* spp

当地にヤナギ類をみて頂くために、木村有香先生をお迎えしたのは、1978年8月24日であった。先生はヤナギの分類の世界的権威者として著名で、お若い頃には本県へも何回か来られた由で、カミコウチヤナギの発見者としても知られている。ヤナギの分類は厄介なものの一つで、私も前からご指導いただいていたが、先生をこの地にお迎えする機縁となったのは南安曇郡奈川村にあるシダレイヌコリヤナギである。

このヤナギについては本誌第7号で報告してあるが、写真と標本は木村先生にもお届けしてあった。先生はイヌコリヤナギの枝垂れは、未だ知られていないから是非現地で実物を見たいとのご希望で、手はずを整えてお待ちした。当日は奥様ともども軽井沢に1泊されて、ご親戚の方の車で松本市へ来られた。私は奈川村教育委員会と連絡をとり、その自動車の出迎えを受けて前からケショウヤナギの調査でご文通のあった山崎林治先生も同行された。

現地では林道から急斜面を登られて、全形から主幹の太さなど仔細に観察され、樹令などについても考察されたので、私も村民の話などをご参考に申し上げた。その後奈川温泉で昼食の際、川端にあったヤナギをご覧になって、これはバッコヤナギとオノエヤナギとの間種であると指摘された。

調査が終って松本市へ帰ったのは午後3時頃で宿舎へはまだ少し早いと考えたので、市内のヤナギを

ご覧願った。その一つは水汲のコゴメヤナギの大木である。これは前からシロヤナギとして本郷村指定の天然記念物となっていたが、これをシロヤナギとすることには疑問があったので、花のついた標本をお届けして、これは標準的なコゴメヤナギの雄花であるとのご回答をいただいていたが、下伊那郡平谷村にある長野県指定の天然記念物となっているコゴメヤナギより大きいので、この機会にご覧いただいたところヤナギとしては全国一の大木であるとのことであった。

因みに、シロヤナギは北日本に分布し本県の北部にもあるとの記録もあるので、その実際を知りたいと思っていて北部へ行くごとに注意しているが、未だ目的は達せられない。先年仙台からの帰りに上越線小出駅で列車の垂換えに時間があつたので近くの河原へ出て採ったのをお送りして、これがシロヤナギでありシロヤナギの南限は今まで福島県の白河市が知られているとのことご回答をいただいている。

市内では市役所前のウンリュウヤナギもご覧になった。これは雌木で枝が長くのびて垂れるので特殊な種ともみられていたが、お濠端で水分の供給がよいのと隔年くらいに枝を切られるので徒長枝のように、よくのびるだけで特別のものではないとお話であった。女鳥羽川の堤防にも同じようなのが2本あって、これもご覧になって同じくウンリュウヤナギの雌木であるとのことであった。

(奥原弘人)